

盲腸は別名虫垂ともいい、大腸の入口の所にある突起状の部分である。便や異物が中に入り込んで血行が悪くなると大腸菌等が繁殖して炎症を起こすことがある。自身か知り合いが盲腸炎の手術を経験した人は多いと思う。ちなみに、スイカの種を飲み込むと盲腸になるという噂は全くの空言らしい。この盲腸という臓器、昔から何のためにあるのか不明とされ、炎症を起こす危険性があるくらいなら予防のために切除してしまえ、と言われた程だ。

この盲腸が実は人の健康の役に立っているという主張が近年出てきている。盲腸にはリンパ組織が集まっていて昔

は到達できず、人体という生態系を大きく捉えることで初めて見えてくるという特徴がある。医学が進歩した現代においても、未だ盲腸の役割が解明しきれていないという事実は、エコロジック的視点の重要性を示すと同時に、エコロジック的思考の難しさを象徴していると言えるのではないだろうか。

このエコロジック的思考は、企業を一つの生態系と見た場合にも重要な示唆を与えてくれる。実際、企業は効率性を重視するあまり、盲腸を切除するかのように、様々なことを廃止してきた。代表的なものとして思い浮かぶ

数 | 理 | の | 窓

盲腸の役割と エコロジック的思考



から免疫機能に何らかの関係がありそうだと指摘があったが、腸内細菌のバランスを保つ上で重要な抗体の産出に関係しているという報告が2014年に大阪大学から発表された。人体という生態系における腸内細菌の重要性が様々な研究によって明らかになってきたことで、盲腸の重要性についても新たな光が当たったということなのだろう。

また、盲腸とパーキンソン病との関係も指摘されている。脳の病気と盲腸が何の関係があるのかと思いたくるところだが、腸と脳の間には様々なシグナルが交換されていることは脳腸相関として知られるようになってきている。盲腸が腸内細菌のバランスに影響するのなら、盲腸が脳の疾患と関係があるのも今や当然のことなのかもしれない。

これらの新たな知見は、いずれも局所的な機能解析で

のが「タバコ部屋」である。タバコ部屋でのコミュニケーションが企業的意思決定にとって重要だという意見もあったが、タバコ部屋を置くこと自体が前時代的だと見做される風潮やコスト削減の理由で廃止されてきた。タバコ部屋が廃止されたことで何が失われたか、非公式な対面コミュニケーションの重要性について、エコロジック視点での研究が進めば、近い将来明らかになるだろう。

他にも昼休みの囲碁将棋タイムやスポーツ大会、社内旅行や社員寮など、時代に合わなくなったという理由で消滅したものは多い。これらをそのまま復活させるという話ではなくとも、その効果を再認識し、他の形でカバーする動きが、エコロジック的思考の普及とともに進むのかもしれない。
(小粥 泰樹)